

「カワイイ」が開く！想像力との会話

2018年2月

「日本ブランド発信事業」専門家

映像アニメーション・絵本作家

神戸芸術工科大学 映像表現学科 所属

金澤麻由子

事業概要

今回の事業では、ウクライナ、スウェーデン、セルビアにて2018年2月19日から3月2日にわたって現地の大学や教育施設などを訪問し、講演会や展示、またワークショップを行いました。私は、手描き絵画の魅力を絵本・映像アニメーションや先端技術を用いたインタラクティブアートなどで表現するメディアアーティストです。しかし、それらは、現代の手法を用いた日本文化・伝統・風土等の表現でもありません。日本の精神性を伝えるプレゼンテーションを行うことで、共通点と差異性を明確にすることができ、相互の文化交流と理解を、より価値あるものにするのが目的です。日本人の自然観を温かみのある手描き絵画と現代的手法であるインタラクティブなメディアアートで表現し、海外の方々へ向けて、発信しました。とくに、「四季」を愛でたり、動植物に想いをはせる「かわいい」には、日本人特有の自然との関わりがあります。日本の「カワイイ」アート作品を通して、日本と海外との精神性の共通点や差異を発見すると共に、相互理解できるように、展覧会や読み聞かせなど感覚に働きかけ、言語に頼らないプレゼンテーションを積極的に取り入れました。展示会場には、インタラクティブアートを数点展示し、作品に対する考え（コンセプト）や技術を講演で発表します。また、交流するためワークショップや絵本の読み聞かせ（音楽映像あり）を行ったり、相互の歩み寄りができる内容に盛り込みました。インタラクティブアート作品をスーツケース2台、合計50kgに収めるために、コンパクト化し簡易版として展示しました。事業の期間中、ヨーロッパを大寒波が襲い、スウェーデン→セルビア行きが1日半遅れ、またスーツケースが3日間スウェーデン空港内で留まるというアクシデントもありましたが、手持ちのラップトップPCのみでできる講演と読み聞かせでのプレゼンテーションという急遽、機転をきかせて場を設けていただくなど、在外公館のみなさまには大変お世話になりました。

今回の事業では以下の日時で施設を訪れ、視察、講演、作品展示を行いました。

◆ウクライナ

2月20日(火)

15:30 展示会場視察・打ち合わせ・準備等（キエフ工科大学）

2月21日(水)

15:00 開会式（キエフ工科大学）

17:00 講演会

2月22日(木)

10:30 展示とワークショップ（キエフ工科大学）

17:00 展覧会撤収

◆スウェーデン

2月23日(金)

15:00 通訳との打ち合わせ および展示会場設営（王立工科大学）

2月24日(土)

12:30 展示スペースオープン（王立工科大学）

13:00～14:30 講演会

15:00 展示スペース撤収

◆セルビア

2月27日(火)

17:00 大使館との打ち合わせ

2月28日(水)

10:00-11:00 通訳との打ち合わせ

14:00-15:00 講演会 及び、読み聞かせ（ベオグラード第八高校）

以下にそれぞれについて、概要を報告します。

1. ウクライナ・キエフ工科大学

日本センター併設の工科大学としてはトップクラスのキエフ工科大学に訪問し、日本センター付属のギャラリーにて展示会と講演を行いました。

1) 展示会「金澤麻由子 インタラクティブアートの展示会」

テーマ：インタラクティブアートと絵本の世界の融合

開催日時：2月21日 15:00～22日 15:00(於：キエフ工科大学)

実施形態：主催 在ウクライナ日本大使館，共催 ウクライナ・日本センター

内容：インタラクティブアート作品数点とイントロダクションの展示。

主な参加者：美術関係者，日本文化関心者

参加人数：約 1,000 名

2) 講演会「「かわいい」が開く！想像力との対話」

テーマ：インタラクティブアートと手描きアニメーションが作用する観客との融合体験

開催日時：2月21日 17:00～18:00 講演時間 1 時間（於：キエフ工科大学・日本センターギャラリー）

実施形態：主催 在ウクライナ日本大使館，共催 ウクライナ・日本センター

内容：手がけてきたインタラクティブアートおよび絵本作品の世界観や背景の説明。

主な参加者：美術関係者，日本文化関心者

参加人数：約 50 名

3) ワークショップ「くるくる☆マジックロール」

テーマ：手描きアニメーションの原点。二枚の絵を描いて学ぶ作画の基本体験。

開催日時：2月22日 10:30～11:30 講演時間 1 時間（於：キエフ工科大学セミナールーム）

実施形態：主催 在ウクライナ日本大使館，共催 ウクライナ・日本センター

内容：一人につき 2 枚の絵を描き、動きと静止の差異を描き分け、動かすことで表現する、手作りアニメーション制作のワークショップ。

主な参加者：美術や日本語・日本文化を学ぶ児童・生徒

参加人数：約 20 名

開会式には、各種メディア報道やキエフ工科大学副学長、在ウクライナ日本大使も足を運んでくださり、インタラクティブで先進的なアート作品への関心の深さがうかがえたと共に、展示会場は非常に賑わいました。文化事業の運営に豊富な経験を有するウクライナ・日本センターの全面的な協力を得たことで、本事業では、展示会・講演会・ワークショップのいずれも多数の参加者やメディア報道が参加してくださいました。美術や大学関係者より、今後の情報交換やつながりについてアプローチを受けるなど、大成功に幕を閉じることができました。各種、メディア報道は以下になります。

(1) ウクライナ語有力日刊紙「デーニ」紙

<https://day.kyiv.ua/uk/photo/shlyub-tehnologiy-i-mystectva>

(2) ウクライナ公共放送「UATV」

<https://youtu.be/M8rKzwKyLHI?t=18m11s>

(3) オンラインメディア「政治・法律・生活」

http://www.pollawlife.com.ua/2018/02/blog-post_21.html

(4) オンラインメディア (facebook の情報を転載するメディア)

<http://dede.com.ua/kyiv/Maiuko-Kanadzava-interaktivne-media-mistetstvo/>

(5) キエフ市民を対象としたポータルサイト (イベント案内)

<https://kyivtoday.xyz/navigator-na-21-lyutogo-shho-cikavogo-v-kiyevi/>

(6) キエフ市発行の新聞 (イベント案内)

<https://vechirniykiev.com.ua/news/navihator-na-21-lyutoho-shcho-tsikavoho-v-kyievi>

(7) キエフ工科大学発行の新聞

<http://kpi.ua/2018-02-21-jp>

(8) ウクライナ・日本センターホームページ

<http://ua.jc.kpi.ua/zakhodi/vidbulosya/7985-kanazawa-mayuko-exhibition-2018.html>

(9) ウクライナ テレビ

<https://www.youtube.com/watch?v=boZHkH9W1gI&feature=youtu.be>



2. スウェーデン・王立工科大学

王立工科大学の講義室をお借りして、展覧会と講演を行いました。

1) 展覧会「金澤麻由子 インタラクティブアートの展示会」

テーマ：インタラクティブアートと絵本の世界の融合

開催日時：2月24日 12:00～15:00（於：王立工科大学）

実施形態：主催 在スウェーデン日本大使館、共催 王立工科大学

内容：インタラクティブアート作品数点とイントロダクションの展示。

主な参加者：美術関係者、日本文化関心者、大学関係者、大学生（修士課程含む）

参加人数：約 60 名

2) 講演会「かわいい」が開く！想像力との対話」

テーマ：インタラクティブアートと手描きアニメーションが作用する観客との融合体験

開催日時：2月24日 13:00～14:00 講演時間 1 時間（於：王立工科大学）

実施形態：主催 在スウェーデン日本大使館、共催 王立工科大学

内容：手がけてきたインタラクティブアートおよび絵本作品の世界観や背景の説明。

主な参加者：美術関係者、日本文化関心者、大学関係者、大学生（修士課程含む）

参加人数：約 30 名



3. セルビア・ベオグラード第八高校

ベオグラード応用美術館での展示と講演が決まっていたが、寒波のフライトキャンセルのアクシデントにより、到着遅延のため、限られた時間内での講演会会場に、工学系の高校の大講義室をお借りして、読み聞かせと講演を行いました。

1) 講演会「「かわいい」が開く！想像力との対話」

テーマ：インタラクティブアートと手描きアニメーションが作用する観客との融合体験

開催日時：2月24日 13:00～14:00 講演時間 1時間（於：王立工科大学）

実施形態：主催 在セルビア日本大使館、共催 王立工科大学

内容：手がけてきたインタラクティブアートおよび絵本作品の世界観や背景の説明。絵本作品「てんからのおくりもの」の読み聞かせも行った。

主な参加者：学生（修士課程含む）

参加人数：約 150名



4. おわりに

ヨーロッパで現地の方々と話さず中、日本の「かわいい」という言葉に備わっている意味が、自分自身の中でも大きな気づきとなっていったのが、とても有意義なことでした。「かわいい」には世話を焼くなど、能動的に関わり愛情をかけることと密接に結びついており、講演の質疑応答では「愛情」についての意見や質問が多く見られました。一見、先進的なメディアアートなので、技術面の関心に傾く可能性も危惧していましたが、さすが、深い文化背景をもつヨーロッパの方々は、すぐにコンセプトや思想背景に興味関心をいただけてくださりました。作家としては、表面的な技術だけでなく、背景のコンセプトまで理解を示していただけただことが、とてもやりがいがありましたし、改めて学ぶところや、方向性への確信へとつながりました。

【参考リンク】

外務省「日本ブランド発信事業」ウェブサイト

http://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/pds/page22_001100.html

Kanazawa Mayuko ウェブサイト

<http://www.mayuart.com/>